

別添資料

4 関連する記事

大卒同等の報酬敬遠？

井川町議選は2012年以降、3回連続で無投票(補欠選挙除く)となっている。立候補者による遊説は告示日のみ。町民が選挙機会を得られない状況が続く。

「これでは議員への信任、不信任を示せない」。井川、五城目、八郎潟の湖東3町商工会の会長を務める湊精肉店(井川町坂本)の店主湊一さん(64)は、現状に疑問を抱く。

小中学校の給食用や福祉施設などに精肉を販売する中、地域経済の停滞を強く感じる。「地域の抱える課題は深刻なのに、

どうする 地方議会

県内の実情を追う

第1部「誰が担う」①

無投票続く井川町議会



井川町議会の本会議。町議選は過去3回連続で無投票となっている(2022年12月)

議員の緊張感が足りなくなっているのではないかと。議会に新しい風が吹き込みます、これまでとは違った発想や視点での政策立案につながりにくい面があると「思う」。

その上で「獲得票数は議員への通信簿のようなもの。定数より

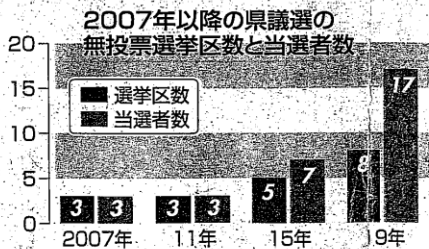
り立候補者が1人多いだけの選挙でも、それぞれの票数が明らかに異なる。それを見れば議員もより謙虚になれるのでは」と訴える。

2期連続で無投票立選している町議会の遠藤政勝議長(76)は、町議のなり手不足について

「報酬の低さが原因だ」と指摘する。報酬は議長が月額25万2千円、議員が21万2千円。「現在の職を辞めてまで出馬するかどうか。町議が職業として成り立つのかが問題だ」と話す。厚生労働省の賃金構造基本統計

県内で無投票となった主な市町村議会選挙

市町村	直近の選挙	状況
井川町	2020年1月	2012年以降3回連続無投票
東成瀬村	2019年4月	2011年以降3回連続無投票
八郎潟町	2021年2月	2017年以降2回連続無投票
湯上市	2022年1月	2005年の市誕生後、初の無投票
八峰町	2022年4月	2006年の町誕生後、初の無投票
大湯村	2020年8月	2008年以降、12年ぶり無投票



計調査によると、本県の20年の大学卒初任給(諸手当含む)の平均額は21万2400円。議員報酬とはほぼ同水準。町議の多くは農家や自営業などで、議員報酬以外にも収入があるという。

町議会は22年7月、議長を除く議員11人で議員定数と報酬の在り方などを考える特別委員会を設置。24年1月の改選に向け、23年度に報酬額や定数についての改革案をまとめる方針だ。

遠藤議長は「選挙戦があった場合と無投票の場合で、その後の活動の違いが出ることはないはずだが、無投票が何度も続く

のは好ましいことではない。議会活動をより理解してもらえ、ように仕事のやりがいも発信していく必要がある」と話す。

県内25市町村の直近の議会議員選挙では、井川町を含め6市町村が無投票となった。

県議選でも前回の19年選挙は、14選挙区中8選挙区が無投票。現行の区割りとなった07年以降、無投票の選挙区数は最多となり、県内の約33万6千人の有権者が投票機会を失った。

地方議会に詳しい新潟県立大学の田中博准教授(60)は政治学Ⅱは無投票の増加傾向について、小規模な自治体の場合、議員報酬の低さが立候補の要因となっている」と分析。

「投票を促さるべきで、有権者が政治家に嫌がらせをする『要スキャンダル』は、家族も含めて耐えなければならぬ場合もある。小規模な自治体では特にこの点を踏まえて」

無投票回避には議員報酬の大幅な引き上げが必要だと指摘。「住民が報酬増に納得できるかがポイントだ。住民の合意が得られない場合は、議員をしながら他の職業で収入を確保できるようにするしかない。県議会については、現職が優位になりがちな1人区を複数人区に変更するなどの対応も必要」と話す。

2023. 3. 1.

第3種郵便物認可

頁 三

月報酬、7万9000円増検討

井川町議会、定数12は維持

井川町議会は28日、町農村環境改善センターで町民との意見交換会を開いた。議員定数や報酬を調査する特別委員会が、現段階の検討案として、定数は12を維持し、月額報酬を7万9千円増やす案を示した。参加者からは「定数減なしでの増額は納得が得られないのではないか」などの意見があった。議会は町民の意見を踏まえて検討を進める方針で、2024年1月に行われる次回町議選前の見直しを目指している。

町民との意見交換会

特別委の松田弘咲委員長らが、町長の活動日数や給料との比較で議員の報酬を求める「原価方式」によって算出した案を説明。町長の活動日数が年間300日、議員は123・22日であることから、町長の月給71万円に日数の割合を乗じて議員の月額を29万1千円と計算したとした。

現行の月額21万2千円が、県内12町村の平均より低い。増額すれば7万9千円の大幅増となり、最高額的美郷町(25万5千円)を上回る。



議員報酬や定数をテーマに行われた意見交換会

意見が出た。議員は「あくまで案であって決定事項ではない。皆さんの意見を聞きながら決めていきたい」と説明した。町議会は今後、次回町議選ターで開く。(菊地隆秀)

までに改定案を取りまとめる。町民らでつくる特別職報酬等審議会に諮問し、妥当と判断されれば、本会議で関連条例改正案を提案する方針。議員のなり手不足解消や議員の資質向上を目指し、町議会は22年7月に特別委を設置。定数部会と報酬部会に分かれ、検討を進めてきた。意見交換会は3月3日午後6時半から町農村環境改善センターで開く。(菊地隆秀)

秋田さきがけ

両立へ環境整備必要

八郎湯町議の京極幸枝さん(20)は2022年の町議選で初当選して以降、政治家と会社員を兼業している。勤務するのは、住居ローンや保険関連商品を販売する「TSMケーソン」(佐々木公典社長。京極さんは大館市にある本社や秋田市の事務所を拠点に営業活動をしている。事務作業をこなしたりして、出勤日は固定されている。出勤日は固定されておらず、議会への出席に特段支障はないという。

どうする 地方議会

県内の実情を追う

八郎湯町議の報酬は月10万6千円。県内25市町村では最低額だ。立候補に当たっては議員以外にも収入の柱をくくる必要があると、考え、コーチや審判を務めるバスケットボールを通じた知人でもあった佐々木社長(51)に相談したと

第2部「壁の先に」(中)

兼業議員

県内市町村議会の月額議員報酬(高い順)と政務活動費

市町村	議員報酬(円)	政務活動費(円)
秋田市	62万5千	10万
大仙市	43万2千	1万5千
由利本荘市	40万2千	1万5千
横手市	38万4千	1万
湯上市	36万	なし
大館市	35万7千	1万5千
能代市	35万4千	1万
湯沢市	35万1千	1万
男鹿市	34万4千	8333
鹿角市	34万2千	5千
仙北市	31万2千	なし
北秋田市	30万2千	なし
美郷町	25万5千	なし
羽後町	25万3千	なし
にかほ市	25万	なし
三種町	24万1千	なし
五城目町	23万5千	なし
藤里町	23万3千	なし
八峰町	23万3千	なし
小坂町	22万2千	なし
上小阿仁村	21万4千	なし
井川町	21万2千	なし
東成瀬村	21万1千	なし
大瀬村	19万9千	なし
八郎湯町	18万6千	なし
13市平均	37万384	—
12町村平均	22万4500	—
25市町村平均	30万360	—

※別冊市の政務活動費は年10万円、小数点以下を切り捨てて額を出した

この議員の兼業を承認しても、佐々木社長は若い人は好きなきょうをやるべきだと話し、日々の活動を後押ししている。

議員になる2年が経過した。町議になる前に勤務していた別の会社では兼業が認められなかった。今の会社の働

き方だかでも、議員活動との両立ができていないと話す。

県内議会の事務局に対する秋田魁新報の調査で、25市町村の議員報酬の月額平均(今年1月時点)は30万3600円だった。13市平均は30万3840円、12町村平均は29万4500円となり、10万円以上の開きがあった。月額報酬トップは秋田市の62万5千円で、12月の期末手当を合わせた年収は約170万円。月額報酬が最低の八郎湯町の年収は約25万3千円だった。今年3月から

80万円だった。全国町村議会議員会の調査によると、町村議員1万769人のうち、議員兼業は23.8%。農業や自営などを兼ねる議員が多い。市議会議員に比べ、報酬が低いことが影響しているの指摘がある。

一方、地方議会の兼業を巡っては、規制を緩和する改正地方自治法が昨年12月、参院本会議で可決、成立した。従来は自治法と取引がある個人事業主は議員を兼業できなかつたが、今年3月から

は年間取引額が100万円以下であれば兼業が可能となる。

地方議会に詳しい大土地域共生学部の江藤俊昭教授(66)は「地方自治は議員のなり手を増やしていくには、活動に見合った報酬引き上げが必要だ」と指摘、引き上げが難しい場合は、政治に関心のある若者が議員になる必要はないかと語る。



秋田市にあるTSMケーソンの事務所で仕事をすすめる京極さん

るまじな会社員が働きながら議員活動ができる環境を整備することが重要だと強調する。

ただ多くの中小企業には、社員が議員活動でたびたび業務を離れることを認めるのは労働力確保の面が難しい。江藤教授は「議員が勤務する会社に国や自治体が奨励金を出すような取り組みも必要だ」と語る。

(第3種郵便物認可)

あきた2023統一地方選

議会 レポート

統一地方選の後半戦では、秋田、大館、上小阿仁、東成瀬の4市村議選が予定されている。地方政治への関心低下や担い手不足が指摘される中での改選。各議会についての基本情報や議会改革の取り組みなどを各地域面で紹介する。

◇ ◇

秋田市議会は定数36。2021年の市長選に市議1人が辞職して出馬したが、同時に市議補選が行われ、欠員はない。性別は男性31人、女性5人。年齢別（3月末現在）では40代4人、50代6人、60代15人、70代9人、80代2人で、平均年齢は63・89歳。当選回数には4回が最多の9人。1、

定数36、出馬50人近くか

2回が各7人で続き、3回6人、6回4人、5回2人、9回が1人となっている。旧秋田市は31人にする。

合併前の市町別では、旧雄和町3人、旧河辺町2人に対し、旧秋田市は31人にする。

議員定数は05年の合併当初に46だったが、人口減少の見通しや財政状況などを考慮し、07年の選挙で42、11年に39と順次削減。19年の前回

秋田市

秋田市議会	
定数	36
報酬月額	70万4千円
期末手当(年間)	264万円
議長	70万4千円
副議長	65万5千円
議員	62万5千円
議員	234万3750円
男女比	男性 31人 / 女性 5人
年齢構成	40代 4人 / 50代 6人 / 60代 15人 / 70代 9人 / 80代 2人
職業	市議 19人 / 政役員 4人 / 会社役員 3人 / その他 5人 / 無職 2人 / 会社員 1人 / 自営業 1人 / 農業 1人

※議会事務局まとめ。期末手当は22年の支給実績。自営業1人、農業1人

報酬、政活費は県内トップ

選から36となり、合併直後と比べ10議席減った。

定数削減など議会改革の方向性は、各派の会長による協議で協議する。現任期でもさらなる定数削減がテーマになり、各派会長会議で随時、話し合われてきた。人口の近い中核市や、東北の県庁所在地の状況などを参考に協議してきた結果、現状では現定数が適正という結論に至っている。

前回選挙後に就任した岩谷政良議長(74)は、議会改革に関して「各派の議論はこの4年間に限らず、その時、他市などと比較しながらずつとやってきた」と話す。

議員報酬は、合併した05年から現在まで月額62万5千円。県内の市町村議会と比較すると、2位の大仙市議会とは20万円ほどの差があり、突出している。各派ごとに年4回交付される政務活動費は1人当たり月額10万円で、これ

も県内トップとなっている。

地方議会では担い手不足が各地で深刻化しているが、合併後に行われた過去4回の市議選の立候補者数は、定数を8〜14人上回った。出馬を決意する人が相次いだのは、県内断トツの報酬の高さも一因と考えられる。

今月16日告示、23日投票の市議選には現在、50人近くが出馬を準備中で、前回を超える激戦が見込まれる。

岩谷議長は「市の財政状況は厳しさを増しており、市議には報酬に見合う仕事が必要とされている。市民の厳粛な責任を受けている立場と責任を自覚し、議会改革を含むさまざまな議論をしていかなければならない」と語った。

(小松田直嗣)

東成瀬村議選 4期連続無投票

「もっと候補出てほしい」

18日に告示された任期満了(4月20日)に伴う東成瀬村議会議員選挙は、定数と同じ10人が立候補を届け出て、4期連続で無投票となった。有権者からは「議員報酬の低さがネックとなり、なり手不足を招いている」「今の村政は良くも悪くも安定している」などの声が聞かれる。

住民に投票機会求める声

村議選は20年ぶりの無投票となった2011年以降、無投票が続く。昨年5月に行われた村長選も5回連続の無投票。6期務めた前職が退き、元村職員の備前博和氏(62)が新たな村長に就いた。10年以上の間、投票の機会がない状況を有権者はどう見るのか。岩井川地区の60代男性は無投票が続く理由に、月額21万円

一方、田子内地区の70代女性「今の村政は良くも悪くも安定している。成瀬ダムなど時間をかけて取り組んでいる事業もあるため、村のことをよく分る人たちが引き続き議論した方がいいのではないか」と話した。初当選を果たした男性は「村議の活動は住民の暮らしと直結している。もっと立候補者が出て、村政が活気あるものになれば良い」と述べた。地方議会に詳しい大正大学社会学部生学部の江藤俊昭教授(66)「地方自治」は「村議選で4期連続の無投票当選は全国的に見ても珍しいと思う。

議員の職業としての魅力や活動内容が伝わらないことが、なり手不足につながっているのではないかと話す。村は07年に定数を14から10に削減。議員が減ったことで有権者と議員の接触が減り、活動の実態が見えなくなっているとの見方を示した。併せて「投票できないというよりは、行政に民意が反映できなくなる可能性がある」という。このままでは「もの手権者意識も育たない」と指摘した。(館岡朋美、小林智彦)



東成瀬村役場前に掲示された村議選の立候補者ポスター＝18日

次代のなり手、どう確保

4年に1度の統一地方選が終わった。前半戦の県議選では女性候補の当選が過去最多タイの6人となった。一方、後半戦の秋田市議選では新人の女性候補が過去最少に並ぶ1人にとどまった。4回連続で無投票となり、なり手不足の深刻さがより鮮明に浮き上がった村もあった。どうする地方議会―県内の実情を追う

どうする 地方議会

県内の実情を追う

二つの村

第3部「統一選を終えて」①

年	東成瀬村 (定数10)	上小阿仁村 (定数8)
2007	11	10
11	10	10
15	10	9
19	10	11
23	10	10

※赤い数字は無投票

東成瀬村と上小阿仁村の議員選挙の立候補者数

二つの村で4月18日に告示された議員選挙は、対照的な結果となった。東成瀬村議選(定数10)が4回連続の無投票に終わった一方、上小阿仁村議選(定数8)は5回連続の選挙戦に突入し、現職と新人の計2人が落選する少数激戦となった。両村の選挙を巡る情勢は異なっている。

「出馬する人がいない。このままだと大変なことになる。」村政の担い手不足は深刻だ。村議選は2007年の選挙戦を最後に、無競争が続く。村長選も無投票が連続化し、最後の選挙戦は09年にさかのぼる。村の80代男性は「もはや無投票に慣れてしまい、議員になる入を探してお願います」とうつぶさに嘆く。



「村政は住民の暮らしに深く関わり」と話す杉山さん

40代の人が加わるまで若返りは進んだ。ただ女性議員は15年かゝるのみ。なほ無投票が続くのか。24年前に埼玉県から村に移住し、村議に今回出選した農家の杉山彰さん(57)は共産党員は15年かゝるのみ。なほ無投票が続くのか。24年前に埼玉県から村に移住し、村議に今回出選した農家の杉山彰さん(57)は共産党員は15年かゝるのみ。なほ無投票が続くのか。24年前に埼玉県から村に移住し、村議に今回出選した農家の杉山彰さん(57)は共産党員は15年かゝるのみ。



若い世代や女性のなり手を確保するため、の議会改革が必要だと訴える長井さん

「村が変わった実感は感じない。その先に、村民が議員を目指してみたいと思える議会の姿がある」と厚く力を込める。

「村が変わった実感は感じない。その先に、村民が議員を目指してみたいと思える議会の姿がある」と厚く力を込める。

一方、上小阿仁村議選は縁相が異なる。07年からの回選

続で選挙戦になっており、今回も定数を2上回る10人が立候補。県内の自治体で唯一、人口は2千人を下回るが、開票所には100人を超える住民が詰めかけ、票の行方に熱い視線を送った。